

産物企業

プラセンタ化粧品・健康食品の研究開発、製造販売を行う北海道ナチュラルバイオグループ



エクソソームとプラセンタを融合した化粧品原料などをアピール

1月は、1月20～22日の3日間、幕張メッセで行われた第10回化粧品開発展に出展、細胞メッセンジャー物質の「エクソソーム」と独

化粧品開発展ブースでオリジナル素材を提案

北海道ナチュラルバイオグループ

自製法で生まれた「プラセンタ」を組み合わせたオリジナル化粧品原料などを紹介し、保湿、エイジングケアにつながる素材として大いに注目を集めた。

30年にも及ぶ研究の知見から実現したオリジナルプラセンタエキスは、美容成分豊富なプラセンタを徹底殺菌しつつも、有用成分は活性状態のまま残すという独自製法で生まれたもの。熱に頼らない低温処理「化学変化の除去」「無加水」という

こだわりを追求し、国内産プラセンタのみを使用している。細胞間の信号伝達に最も重要な物質とされるエクソソームは、幹細胞などから分泌される30～200nmの粒子で、タンパク質など活性物質を含み、新薬の開発、供給及び診断に適用されており、同社では、独占販売権を得たエクソソーム「ASC-derived Exosomes」を活用。これまで市場になかったエクソソームとプラセ

ンタを融合した素材として発信し、露出を高めていきたいと考えた。事業担当者は「展示会ではブースで最新原料についてのセミナーも行い、たくさんの反響があった。来場者も非常に多く、OEMなどの引き合いもたくさんいただいている。エヒデンスも担保して商品化を進め、効能効果をきちんと訴求でき、安心・安全性を確保できている原料開発につなげていきたい」と今後の展開も見据える。